

酒紀行 地元酒米を復活、DXも駆使



代表銘柄の「蓬萊」を手にする渡辺酒造店の渡辺久憲社長

標高三千以上の峻の峰が連なる飛騨山脈の山々に囲まれた岐阜県飛騨市古川町。冬はじつと厳寒の地で「蘆荻」の銘柄で知られる飛騨酒造店は十五〇年を超えて歴史を紡いできた。

井口からいみじくも飛騨山脈水系の伏流水に酵母の香りの生成を促す低温で、地理的に酒造りに適した条件がそろう。ただし、極度の低湿は酢酸や死滅するリスクとも隣り合わずだ。気候に合わせ、通常一週間にしかる酒仕込みを一日にしてつむぎだす「敏々寒造り」がある。

標高三千以上の峻の峰が連なる飛騨山脈の山々に囲まれた岐阜県飛騨市古川町。冬はじつと厳寒の地で「蘆荻」の銘柄で知られる飛騨酒造店は十五〇年を超えて歴史を紡いできた。

井口からいみじくも飛騨山脈水系の伏流水に酵母の香りの生成を促す低温で、地理的に酒造りに適した条件がそろう。ただし、極度の低湿は酢酸や死滅するリスクとも隣り合わずだ。気候に合わせ、通常一週間にしかる酒仕込みを一日にしてつむぎだす「敏々寒造り」がある。

岐阜県飛騨市「渡辺酒造店」



に」を掲げる渡辺社長は
縁日やお笑いや芸入りの
「はなまつ会」をわた「蔵州
ひら」を2007年かい
開催する。直近の邦土音
は約14億円と20年間で約
6倍に伸びた。

酒米遷びも進取の精神
に宣む。地元の「ひだほ
まれ」と田錦をメー
ンに使用しながら、14年に
心白（コメの中心の白濁
した部分）が発現してい
く「ひだほり」を農家
と協力して復活させた。
平成期に姿を消してい
た「大吟醸に向く」と
刃社長。蓬萊ライズの
「柿染め 木綿搾り」
ばかりを全量使つて。

15年に立ち上った「W」
 フリーペは約10種類の異
 なる酒米を精米混合など
 をぞろぞろ作り分け、14
 の商品を作っている。兵庫
 県産の「愛山」や秋田の
 「豊の尾」など希少品種
 も使い、味の違いを楽し
 みてほしい。

26年には世界遺産・白川郷がある白川村に第2の蔵を建て、新アヅマ「白川村の蔵」を立ち上げ、渡辺社長が掲げる究極の目標は「日本酒がいつかを超えて世界一の酒と認められること」。

蔵島亭や試飲会で、
ウヰー（諸口外國人）密
におもひ、口にはない
世帯に適用する特産品を
生かすつもりだ。

酒造りに携わる。
旅行で蔵見に訪れた
人から品評会用に新聞紙
にくるんでいた酒を「売
ってほしい」と頼まれた
のに着想を得て、新聞紙
で瓶を巻いて秘蔵感を出
した04年発売の「蔵元の
隠し酒」が大ヒット。「酒
のエンターテインメント」

歴史的に、現代の日本は、
 へで遠隔操作で、
 にした。過疎化の最先端
 地ともいわれる飛騨で
 「職場環境を改善しな
 と造り手がなくなつた」
 と渡辺社長。タニクの蓋
 は軽量のアルミニウムに
 換へ、今では女性らが

ものぞいて。人か一時間
一時間かけるうじでいざ
動かす酒ができる」。そ
んな伝説を大事にしてつ
も、現場では大胆なブ
タルト・スプレッド・オマ
シユン(ロウ)化が進む。

飛驒市美術館
飛驒古川駅
飛驒の丘。
飛驒古川まづり会館
文化館
渡辺酒造店
荒城川
富川